

「自然豊かな場所で家族一緒に農業を！」



氏名 升田 準二 (47歳) 新規参入
(久万高原町)

1 就農の動機・理由

大学進学と同時に東京で生活していたが、都会の生活に疑問が生じた。結婚し、子供も生まれ、自然環境に恵まれた場所で、自然や生物と一緒に過ごし、育てて欲しいと考え、移住を決意した。同時に、「食を作る」という人間の幹となる農業に憧れ、農業を職業としたいと強く思うようになった。

平成29年に妻・子2人と共に移住し、久万農業公園研修センターの研修生になり、2年間トマトの養液土耕栽培の技術等を学んだ。研修期間中に農地を確保し、ハウス建設など準備を進め、平成31年4月に就農した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農前の経営 (2018年)	現在の経営 (2019年)	将来の経営 (2023年)
労働力	(研修中)	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)
経営耕地	(研修中)	田 40a 計 40a	田 40a 計 40a
経営内容	(研修中)	トマト18a	トマト18a

○農業用施設

ビニールハウス 8棟 1,800㎡
倉庫(パイプハウス) 1棟 50㎡

○主要農業機械

軽トラック 1台
トラクター 1台
小型運搬車 1台
動力噴霧器 1台
自走式防除機 1台
養液土耕システム 1式 (18a分)

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県伊予郡松前町
職歴 テレビ制作会社、
築地仲卸会社 勤務

就農研修歴

平成29年4月～平成31年3月
久万農業公園 研修生

就農年月

平成31年4月

(2) 就農時の思い

住む所や農地の確保・ハウス建設等については、研修中に準備できていた。子供がいるので失敗が許されず、本当に農業でやっていけるか不安だった。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

久万農業公園で2年間の研修を受け、トマト栽培の基礎を身につけた。

(2) 資金の準備

久万高原農業公社から新設のビニー

ルハウス、養液土耕システム一式等を賃借した（同公社の農業機械・施設整備補助事業も活用）。

また、認定新規就農制度の認定を受け、農業次世代人材投資資金を受給し、施設・機械の充実を図る予定である。

(3) 農地・住宅の確保

研修期間中に久万高原営農支援センターと共に情報収集した。

就農までに農地を賃借し、空き家を購入し、すぐ営農できるよう備えた。

(4) その他苦労したこと

研修期間中にハウスを自分で建設しなければならず、日々の作業との両立に苦労した。また、研修中に比べ栽培面積が増えたことによりトマト管理作業が遅れるなどした。

5 農業経営の特徴

研修で得た知識や先輩農家からのアドバイスを参考に、基本的な栽培管理を適期に行うことを心掛けている。

また、トマト部会に加入し、エコえひめ（特別栽培農産物等認証制度）に取り組んでいる。

6 これからの夢

久万高原トマトはこの地域を代表する農産物なので、他の産地より品質が良く美味しいものを作りたい。

また、久万高原町の地域活性化のため、特色ある加工品を作れたらと考えている。

7 成功したキーポイント

研修期間中から、青年農業者連絡協議会に加入し仲間との情報交換や交流を行っている。また、地域の祭りや行事に積極的に参加し、地元の方々との交流を大切にしている。

就農1年目なので、成功したと思っていないが、来年は今より栽培管理などを頑張りたい。

8 就農を目指す方へのアドバイス

「体が資本」、「体力重視」、何事も計画を立てて実行していくこと。

日々の作業も基本を忠実に行うことが大事。わからない事があれば、恥ずかしがらずにベテラン農家さんに聞くと、みんな丁寧な丁寧に教えてくれますよ。

○ 指導機関からのひとこと

研修ほ場と就農地は勝手が違い、苦労があったと思いますが、奥様と力を合わせて就農初年度を乗り切られました。

青年農業者組織や地域活動にも積極的に参加されており、地域の担い手として活躍していただけることを関係機関一同期待しています。

執筆機関

中予地方局 産業振興課

久万高原農業指導班

電話番号 0892-21-0314



トマト作業中の升田さん